

# プログラミング授業を支援

## 教育支援協会 モデル提案や研修会

新学習指導要領で2020年度から小学校で「プログラミング教育」が導入されるのに向けて、NPO教育支援協会北海道(本部帯広)は、地域人材を活用して学校現場のプログラミング授業を支援する事業に取り組む。すでに管内で学校の英語教育支援に取り組んでいるノウハウを活用し、千歳県内でプログラミング授業支援を行う企業と協力して、今年度から授業モデルの提案や教職員・行政職員対象の研修会開催などを計画している。(小林祐二)

## 小学校で20年度から導入

プログラミング教育は20年度から導入されているが現状、学校現場年度への導入に向けて、今年には専門的知識を持つ人材と19年度が移行期間だが少ないことなどが課題が、小学校では今春の道徳で、民間企業やNPOなど、教科化と20年度の英語正式による授業サポートも重要教科化もあり、対応が遅れと指摘されている。

プログラミング教育 コンピューターを動かすためのプログラムを学ぶ教育。技術の習得だけでなく、結果に結び付く仕組みを学ぶ「プログラミング的思考」を育てるのが狙いとされる。

同協会は「地域に根ざしたNPO」として、地域と学校が一体になった教育実現を目指している。学校の英語教育では、音更、本別、米マサチューセッツ工科大

更別の3町村で、地域人材(サポーター)を活用した授業支援などを行っている。プログラミング教育についても、同じ枠組みを活用して、学校授業のサポートを目指す考え。

協力をするのは、千歳県柏市で公立小学校全4校のプログラミング教育を支援する企業「フューション・パワー」(宮島衣瑛代表)。

同協会は「地域に根ざしたNPO」として、地域と学校が一体になった教育実現を目指している。学校の英語教育では、音更、本別、米マサチューセッツ工科大

### 来月8日説明会

NPO教育支援協会北海道の事業説明会が7月8日、音更町内の木野コミュニティセンター(木野西通8ノ2)で開かれる。

午前の部(午前10時半～正午)は、英語授業の説明会のNPOのミッションと市民活動(プログラミング教育含む)を同時開催。午後は英語指導者向けワークショップを開く。参加は地域教育に関わる志がある人1,000名。



宮島さん(右)から教育用プログラミングツール「スクラッチ」の説明を受ける関係者ら

が開発した教育用プログラミングツール「Scratch(スクラッチ)」を活用し、カリキュラム作成や教育委員会が学校に派遣する「ICT支援員」の研修などを行っている。

同協会は「このほど、プログラミング教育準備室」を立ち上げ、4日は宮島代表が来帯し、協会スタッフや管内小学校教員らを対象に、スクラッチを使用した算数や理科授業を紹介。「コンピュータやスマホなどテクノロジーがあふれる社会で、子どもたちに『どう使っていくか』についての教育が必要」と話した。

今年度は同社と共同で、授業モデルを作成して学校現場に提案し、試験的な授業実施や教員向けの研修会開催を検討している。授業のサポートには地域の教育に関わりたい地元人材を活用する考えで、事務理事の白石友希さんは「地域が共同してやっていると形を示したい」と話している。

7月8日にはプログラミング教育も含むNPOの事業説明会を開催し、新たな

問い合わせ、申し込みは同協会へ電話(0155・33・30003、月～金午前9時～午後5時)かメール(int@okvokushien-t.com)。